

大学構内における喫煙の問題とその解決に向けての実践的研究

仲村 啓（環境教育課程4回生）

1. はじめに

滋賀大学教育学部のキャンパスを歩くと、あちらこちらにポイ捨てされたタバコの吸殻が目につく。また、多くの人を通る場所において喫煙する姿が目立ち、喫煙者以外の人が強制的にタバコの煙を吸わされている。環境汚染や受動喫煙を防止するために、喫煙者に対するモラル向上啓発が続けられているが、なかなか効果が上がっていない。そこで本研究では、喫煙場所を増設し、喫煙者を喫煙場所へ誘導することで、問題が解決に近づくのではないかと考え実践的研究を行った。喫煙場所を増設し、その周知前後におけるキャンパス内での吸殻及び喫煙状況を調査し、その効果を探った。

2. 研究方法

2006年10～11月に滋賀大学教育学部のキャンパス内に落ちている吸殻ポイ捨て状況を調査した。その後、学生企画奨励費を活用し、喫煙場所を四ヶ所増設し、その周知活動を行った(図1)。そして、周知後2008年11月にキャンパス内の吸殻のポイ捨て状況を調査し、比較検討した。

3. 研究結果および考察

石山キャンパスの吸殻ポイ捨て状況を調査した結果、一週間におよそ300本の吸殻がキャンパス内に捨てられていることが分かった。捨てられている場所は、ベンチや出入り口付近が多かった。人通りが多いところで、喫煙している姿が頻繁に見られ、受動喫煙が発生していると考えられた。

喫煙場所を増設し、その周知活動を行った後では、キャンパス内に落ちている吸殻の数は顕著に減少していた。ベンチや出入り口付近で喫煙する姿も減り、喫煙場所において喫煙する姿が多くみられるようになった。喫煙場所の灰皿に入っている吸殻から、喫煙者をうまく誘導できていることが分かった。

しかし、人通りの多い場所での喫煙がまだ見受けられ、キャンパス内の吸殻のポイ捨てが完全になくなったわけではない。喫煙場所増設による新たな問題も浮上し、改善すべき点はまだまだ多く残っており、引き続き活動を行っていく必要がある。本研究を踏まえ、公共の教育機関である大学が、効果的な対策を打ち出してくれることを願うものである。

学内の喫煙について

喫煙は以下の場所で

お願いします。

歩行喫煙・吸殻のポイ捨ては

やめましょう。

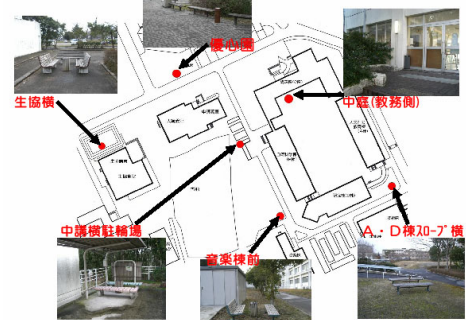


図1. 喫煙場所周知ポスター